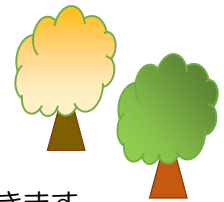




「みとめあうってすてきたね」



～自分を知る ^{ひと}他人を知る～

身近な人や違う考えを持つ人、ほかの国の人を知ることが平和につながっていきます。
自分のまわりに目を向けて、理解を深めてみませんか。
市内5つの図書館で借りられます。

東村山市立図書館

『ぼくがいちばん

ききたいことは』

アヴィ／著 青山南／訳 ほるぷ出版

パパとママが離婚して今はママとママの恋人と暮らすデイモン。月に一度の面会日にパパの家に行くと見知らぬ女性が。ここは僕の家なのにどういふこと？戸惑うデイモンにその女性は・・・

大人の都合で大切な何かをなくしてしまったデイモンのほか、腰抜けの息子を許さない父に初めて反抗したチャーリーなど、身近な人との関係を見つめ直す男の子たちを描いた短編集。

「あなたがいちばんききたいこと」は何？

『「空気」を読んでも従わない

生き苦しさからラクになる』

鴻上尚史／編 岩波書店

人の頼みを断れない。周りの目が気になる。先輩に逆らえない。SNSが気になる。その場の空気に流される・・・誰もが思い当たる悩みの数々。でも、実はこの生き苦しさにはヒミツがあるんだって。それを、この本ではひとつずつ考えて解き明かしてくれる。

日本社会に根強く残る「世間」や、ついつい読んでしまう「空気」。この正体が分かれば少しは生きやすくなるのかも。

『へいわとせんそう』 たにかわしゅんたろう／ぶん Noritake／え ブロンズ新社

平和な時と戦争の時の顔ってこんなにちがう。戦争は全てをこわしてゆく。でも敵も味方もみんな同じ人間。同じ地球で生きているんだよ。平和と戦争がどういふものか、教えてくれる絵本。

『父さんはどうして

ヒトラーに投票したの？』

ディディエ・デニクス／文 PEF／絵 湯川順夫／訳 戦争ホーキの会／訳 解放出版社

ドイツ・ミュンヘンで両親と障害のある妹と暮らす少年ルディ。彼の目から見た、ナチスのヒトラーの台頭から、第二次世界大戦敗北までを描いた絵本。

世界大恐慌で失業に苦しんでいた人々は、ヒトラーに期待し、選挙でナチス党に投票した。だがナチスの政治は、ユダヤ人などナチスが「劣っている」とみなす人々を、徹底的に排除する恐ろしいものだった。ヒトラーを選んだことが、どんな結果をもたらしたのか、ほかの道はなかったのか、考えさせられる物語。

『となりの難民 日本が認めない

99%の人たちのSOS』

織田朝日／著 旬報社

「難民」とは、自国で安全に暮らせなくなって他国にのがれてくる人たちのこと。よその国だけじゃなく、日本にも難民がいる。でも、大変な思いをして日本にたどりついて、在留資格のない難民は、収容所に入れられて、不自由な生活を送っている。

長年、難民支援活動に関わっている著者が目にした、収容所での厳しい暮らしを、4コマ漫画とともに紹介した本。「支援の第一歩は知ること」と織田さんは言っている。身近にいるかもしれない難民のことを知り、世界に目を向けてみよう。